

平成 29 年度 委員会活動報告
平成 29 年 8 月 1 日～平成 30 年 7 月 31 日

学術委員会

■構成メンバー（◎委員長、○副委員長、五十音順）

- ◎岡田 彩子（兵庫県立大学）
○三浦 英恵（日本赤十字看護大学）
阿部 隼人（北里大学看護学部）平成 30 年 5 月まで
大津 美香（弘前大学）
瀬戸 初江（東北医科薬科大学病院）
竹原 歩（兵庫県立大学）
仲村 直子（神戸市立医療センター中央市民病院）
旗持 知恵子（大阪府立大学）
濱上 亜希子（兵庫県立大学）平成 30 年 6 月から
深水 愛子（大阪警察病院）
三浦 稚郁子（地域医療振興協会）
南川 貴子（徳島大学大学院）
若林 留美（東京女子医科大学病院）

■活動の概要

平成 29 年度は委員会を 3 回開催（TV 会議含む）し、適宜メール会議を行った。海外の循環器看護に関連する会との交流に向けた検討、循環器看護領域の用語、定義の検討、その体制作りとしてワーキンググループの結成、および 3 回の教育セミナーを開催した。

1. 海外の循環器看護に関する会との交流

日本の循環器看護領域の学術的発展のあり方の検討を目的とし、海外の循環器看護に関する会との交流を検討した。The Global Cardiovascular Nurse Leadership Forum(GCNLF)への加盟に向けて、2018 年 10 月 10-12 日ポルトガル・リスボンで開催される Forum に出席した。14 か国からの参加者との交流を図るとともに、今後の GCNLF 加盟について、サポートや交流の可能性等を検討した。

2. 循環器看護領域の用語・定義の検討

循環器看護領域の学術的基盤の構築と発展に向けた、用語・定義の検討を行うため、第 14 回日本循環器看護学会学術集会で交流集会「循環器看護を考える；循環器看護って何？循環器看護の専門性とは？」を開催した。また、循環器看護の定義及びステイトメント作成に係わるワーキンググループ（循環器看護 WG）を学術委員会に設置し、第 1 回循環器看護 WG 会議（TV 会議）を行った。循環器看護の周辺領域の各専門領域での定義に関する情報を共有し、循環器看護の定義に含まれるべき要素の検討を行った。

3. 教育セミナーの開催

【第 31 回教育セミナー】

テーマ：心不全看護の上級編『循環器領域の看護師に求められる役割と地域連携の課題 ～新たな活動の開拓～』
日 時：2018 年 2 月 4 日（日） 10：00～16：00

場 所：大阪府立大学 I-site なんば 2 階（大阪）

参加人数：会員 71 名、非会員 87 名、計 158 名

【第 32 回教育セミナー】

テーマ：不整脈ケアのレベルアップ（中級編）

日 時：2018 年 2 月 12 日（月） 10：00～16：10

場 所：一橋大学 一橋講堂（東京）

参加人数：会員 12 名、非会員 105 名、計 117 名

【第 33 回教育セミナー】

テーマ：基礎から学ぶ虚血性心疾患患者の理解（初級編）

日 時：2018 年 5 月 26 日（土） 9：50～16：10

場 所：情報・産業プラザ アエル（仙台）

参加人数：会員 9 名、非会員 85 名、計 94 名

以上

（報告者：岡田 彩子）

学会誌編集委員会

■構成メンバー（◎委員長、○副委員長、五十音順）

- ◎旗持 知恵子（大阪府立大学）
○瀬戸 奈津子（関西医科大学）
稲垣 美紀（摂南大学）
落合 亮太（横浜市立大学）
北村 愛子（大阪府立大学）
高谷 真由美（順天堂大学）
白水 真理子（神奈川県立保健福祉大学）
宮松 直美（滋賀医科大学）
宮脇 郁子（神戸大学）

■活動の概要

本年度は 2 回の対面会議と 3 回のメール審議および複数回の情報共有・情報交換を行い、以下の活動を行った。

1. 日本循環器看護学会誌の発刊（第 13 巻第 1 号、第 13 巻第 2 号）

会議にて、校正、編集作業を行った。また 14 巻 1 号の掲載内容について検討を行った。

2. 電子投稿・査読システムの導入

電子投稿・査読システムに関して複数の業者のシステムプレゼンテーションを実施した。理事会の承認を経て、(株)アトラスの Editorial Manager 日本語版を H30 年 4 月より導入した。運用後、専任査読者登録内容等の変更について検討した。

3. 投稿規程等の改正

電子投稿・査読システムの導入に際して、投稿規程および専任査読委員に関する細則の改正を行った。また利益相反に関する申告書も倫理委員会とともに作成し、

Web ページに掲載した。

4. 次期専任査読委員候補者の推薦

専任査読者の任期更新の時期となり、学会誌の質の担保を図るため、専任査読候補者の追加を募り、19名の新たな専任査読委員候補者を推薦した。

5. 学会誌への投稿促進のための活動

①第14回日本循環器看護学会の委員会企画として「臨床現場からの研究成果の発信-学会発表から論文投稿、査読・学会誌掲載までの事例教えます-」として、編集委員による学会発表から論文掲載までの過程と障壁、対処についてミニレクチャーを実施するとともに臨床現場から学会誌投稿を行った山崎優介氏に実際のプロセスを講演いただいた。

②事例報告のモデルとなる論文として13巻2号に、特別寄稿として事例報告（高齢心不全患者の心不全管理における地域連携の課題-訪問看護師との情報交換からの一考察-/仲村直子氏）を掲載した。

6. 日本循環器看護学会論文表彰委員の推薦

12巻1号、12巻2号、13巻1号、13巻2号掲載の日本循環器看護学会論文表彰の審査にむけて、5名の表彰委員会委員を推薦した。

以上

（報告者：簗持 知恵子）

政策・診療報酬委員会

■構成メンバー（◎委員長、○副委員長、五十音順）

◎宇都宮 明美（京都大学）

高田 幸千子（国立病院機構神戸医療センター）

仲村 直子（神戸市立医療センター 中央市民病院）

藤井 利江（兵庫医科大学病院）

○三浦 英恵（日本赤十字看護大学）

明神 哲也（東京慈恵会医科大学）

山田 佐登美（川崎医科大学総合医療センター）

■活動の概要

平成29年度は委員会を1回開催し、適宜メール会議を実施しました。

1. 循環器看護分野の政策的課題の検討

平成30年の診療報酬改定で緩和ケアが非がん患者に適応が拡大されたため、学会としてHPなどで心不全患者に対する緩和ケアを提言するため、WGとして活動することを提案し理事会の承認を得て人選を行なった。

2. 循環器看護分野における診療報酬獲得に向けての検討、関連学会との連携・渉外

平成32年度改定に向けて緩和ケア、心不全の再入院予防を検討課題としている。今後は内科系保険連合との渉外が必要である。

3. 医療保険に関する外部機関への会議等の出席、および

渉外

看保連に対して平成32年度診療報酬改定に向けて「緩和ケアチームに対する人的要件の拡大」の意向書を提出した。

4. 心不全患者の再入院予防介入プログラム研究の実施（看保連助成金）

倫理審査承認後、各実施施設で倫理審査承認後介入が開始されている。平成30年末まで介入実施予定である。

以上

（報告者：宇都宮 明美）

広報委員会

■構成メンバー（◎委員長、○副委員長、五十音順）

◎落合 亮太（横浜市立大学）

小泉 雅子（東京女子医科大学）

笹川 みちる（国立循環器病研究センター）

高山 直子（東京大学医学部附属病院）

徳永 友里（横浜市立大学）

山中 源治（東京女子医科大学病院）

■活動の概要

1. 学会ホームページ・会員専用コンテンツの充実
学会ホームページ上に、既存の「学会からのお知らせ」に加え「関連団体より」を新設し、会員への情報発信機能を充実させた。また、電子投稿システムの導入に伴い、ホームページ上から電子投稿システムにアクセスできるようリンクを新設した。

2. 会員の研究・臨床実践
第11号からニュースレターの内容を刷新し、ガイドライン、臨床実践、研究に関してホットトピックとして会員が情報発信をする場とした。

3. 平成29年度ニュースレター第10・11号を発刊
通算10・11号を作成し、学会ホームページに公開した。

4. メーリングリスト導入の検討
学会ホームページ上に「関連団体より」を新設し、会員への情報発信機能を充実させたため、本年度のメーリングリスト導入は見送った。今後、内容を刷新したニュースレターの発行頻度が増えた際に改めて導入を検討することとした。

以上

（報告者：落合 亮太）

倫理委員会

■構成メンバー（◎委員長、○副委員長、五十音順）

◎瀬戸 奈津子（関西医科大学）

- 小泉 雅子 (東京女子医科大学)
- 大原 千園 (関西医科大学)
- 谷口 千夏 (武庫川女子大学)
- 道又 元裕 (杏林大学医学部付属病院)
- 鷺田 幸一 (神戸女子大学)

■活動の概要

平成 29 年度は研究倫理申請が 1 件あり、外部委員 3 名を委嘱 (任期: 就任後 1 年間 (平成 29 年 9 月 25 日~平成 30 年 9 月 24 日)) し、委員会委員 3 名の計 6 名で、申請のあった課題に対し、平成 29 年 10 月に第 1 回倫理審査委員会 (通常審査) を開催した。審査結果を「条件付き承認」として通知し、平成 30 年 1 月に申請者より修正書類が提出され、メール会議にて再審査を行い、「条件付き承認」の結果を通知、平成 30 年 5 月に修正書類が提出され、確認後同月承認となった。

また編集委員会とともに学会誌「利益相反に関する申告書」を作成して Web ページに掲載し、「利益相反指針」改訂案を作成しているところである。その他、個人情報保護や倫理綱領に関する問題はなかった。

以上

(報告者: 瀬戸 奈津子)

国内交流委員会

■構成メンバー (◎委員長、○副委員長、五十音順)

- ◎仲村 直子 (神戸市立医療センター 中央市民病院)
- 池亀 俊美 (榊原記念病院)
- 遠藤 美代子 (東京大学医学部附属病院)
- 岡田 彩子 (兵庫県立大学)
- 高見沢 恵美子 (関西国際大学)
- 田村 綾子 (徳島大学)

■活動の概要

1. 本法人の国内の循環器看護関連法人・学会・研究会などを中心とした諸団体との交流をはかるため、メール会議を 7 回開催し、下記の関連学会・団体とのジョイントシンポジウム、市民公開講座の開催、座長や演者の推薦、共催・後援などの名称使用の承認を行った。

●開催済み

- ①第 74 回日本循環器心身医学会学術総会 (2017 年 11 月 3 日) におけるジョイントシンポジウム (座長: 竹原歩氏を推薦)
- ②第 82 回日本循環器学会学術集会 (2018 年 3 月 23-25 日) におけるジョイントシンポジウム『チームで取り組む循環器医療における Advance Care Planning』(座長: 推薦のあった山部さおり氏を承認)
- ③第 24 回日本心臓リハビリテーション学会 (2018 年 7 月 14-15 日) におけるジョイントシンポジウム『心臓リハビリテーションにおける質保証にむけた看護職の関わり

り~看護職は何をみて、何を患者・家族の生活にいかしていくことができるのか?~』(座長推薦は理事会に一任)

④日本集中治療医学会より「敗血症セミナー in 東京/世界敗血症デー2018」(2018 年 9 月 1 日) の後援の名称使用の承認。

●開催予定

- ①第 15 回日本循環器看護学会学術集会 (2018 年 10 月 27-28 日) における日本循環器学会とのジョイントシンポジウム『循環器病の経過に合わせた栄養管理』(座長: 池亀俊美氏を推薦)
- ②第 75 回日本循環器心身医学会学術総会 (2018 年 11 月 4 日) におけるジョイントシンポジウム『ACP~アドバンス・ケア・プランニング~』(座長: 徳永友里氏を推薦)
- ③第 48 回日本心臓血管外科学会学術総会 (2018 年 11 月 17 日) における市民公開講座『チームで行う心臓血管外科治療』(共催の承認、演者: 山岡綾子氏を推薦)
- ④第 5 回心臓移植市民公開講座 (仙台; 2018 年 11 月 24 日) 共催の承認
- ⑤第 82 回日本循環器学会学術集会 (2019 年 3 月 29-31 日) におけるジョイントシンポジウム『循環器疾患患者の在宅医療を考える』(座長: 推薦のあった仲村直子氏を承認)

2. 下記の関連学会との合同会議に本学会の代表として委員が参加した。

- ① 第 25 回日本臓器移植関連学会協議会 (2018 年 1 月 13 日) 遠藤委員が参加。
- ②日本臓器移植関連学会協議会より「睨島移植保険収載に関する要望書の提出」に関する審議の依頼があり、審議し、賛同することとしたが、協議会内で再度検討するとの連絡があった。

以上

(報告者: 仲村 直子)

選挙管理委員会

■構成メンバー (◎委員長、○副委員長、五十音順)

- ◎伊藤 文代 (国立病院機構大阪医療センター)
- 角口 亜希子 (榊原記念病院)
- 多留 ちえみ (神戸大学)
- 長家 智子 (佐賀大学)
- 菱田 千珠 (国立病院機構大阪医療センター)
- 本杉 ふじえ (国立循環器病研究センター)

■活動の概要

- 1. 一般社団法人日本循環器看護学会に移行後 3 期目の理事選挙を実施した。
- 2. 選挙結果を理事会に報告し了承を得た。
- 3. 選挙投票用紙及び集計表は、社員総会で承認された

後に、シュレッターで廃棄する予定である。

以上

(報告者：伊藤 文代)

総務委員会

■構成メンバー (◎委員長、○副委員長、五十音順)

◎池亀 俊美 (榊原記念病院)

○加賀谷 聡子 (杏林大学)

齊藤 奈緒 (神戸大学)

西田 和美 (国立病院機構京都医療センター)

■活動の概要

学会活動が円滑に運営されるよう、HP, E-mail、発送物を通じて会員獲得ならびに会費納入依頼を行った。平成30年7月31日時点で、会員数1250人、会費納入率94%となった。名誉会員選出規定を作成した。また、日本看護協会認定看護師制度の再構築に伴い、第15回日本循環器看護学会学術集会(2018年10月)において総務委員会特別企画として、日本看護協会認定看護師制度再構築準備室塚原大輔氏による講演を企画した。

以上

(報告者：池亀 俊美)